

神奈川県衛生研究所の概要

Kanagawa Prefectural Institute of Public Health



衛生ちゃん

健やかで安全な生活環境をめざして



神奈川県衛生研究所全景（左：事務棟、右：研究棟）

神奈川県衛生研究所



衛生博士

■ 衛生研究所の役割

～県民の健康と生活の安全を守るために～

衛生研究所は、県民の皆さんの健康の保持・増進、公衆衛生の向上を図るために、地域及び広域的な保健衛生行政の科学的、技術的な中核試験研究機関としての役割を果たしています。

衛生研究所では設立以来、高度な試験検査技術と専門知識を生かして、感染症の監視と予防、食品・医薬品の安全確保、快適で健康な生活環境の確保等を図るための調査研究、試験検査を行ってきました。これらの成果や実績を踏まえて、地域保健関係者への研修指導や公衆衛生情報の収集・解析・提供を通じて地域の保健衛生行政を科学的、技術的側面から支え、県民生活の安全確保に貢献しています。

しかし近年、グローバル化、高齢化、国際化、技術革新などにより、公衆衛生や県民生活を取り巻く状況は急速に変化しています。例えば、食生活の変化等により疾病構造が変化しています。また、腸管出血性大腸菌O157やノロウイルスなどによる食中毒や感染症が多発しています。エイズ、鳥インフルエンザ、新型インフルエンザなどの新たな感染症も発生しています。

また、残留農薬や食品添加物などによる食品の安全性、いわゆる健康食品による健康被害、化学物質による飲料水や室内環境の汚染などのほか、放射線物質等による環境汚染やバイオテロ事件発生などが懸念されています。このような県民の生命、健康の安全を脅かす事態に対して、健康危機対応が重要な課題となっています。

衛生研究所は、これらの健康危機の懸念や発生に対して、関連の行政機関や試験研究機関などと連携して、県民の皆さんの健康の保持増進、健康被害の発生予防・拡大防止など、健康危機管理に係る業務の充実に積極的に取り組んでいます。

また、施設公開、公開セミナー、出前講座、ホームページなどを通じて調査研究や試験検査の結果、地域の保健衛生情報を分かりやすく提供し、県民の皆さんに親しまれる開かれた研究所を目指しています。



正門と事務棟



研究棟

沿革

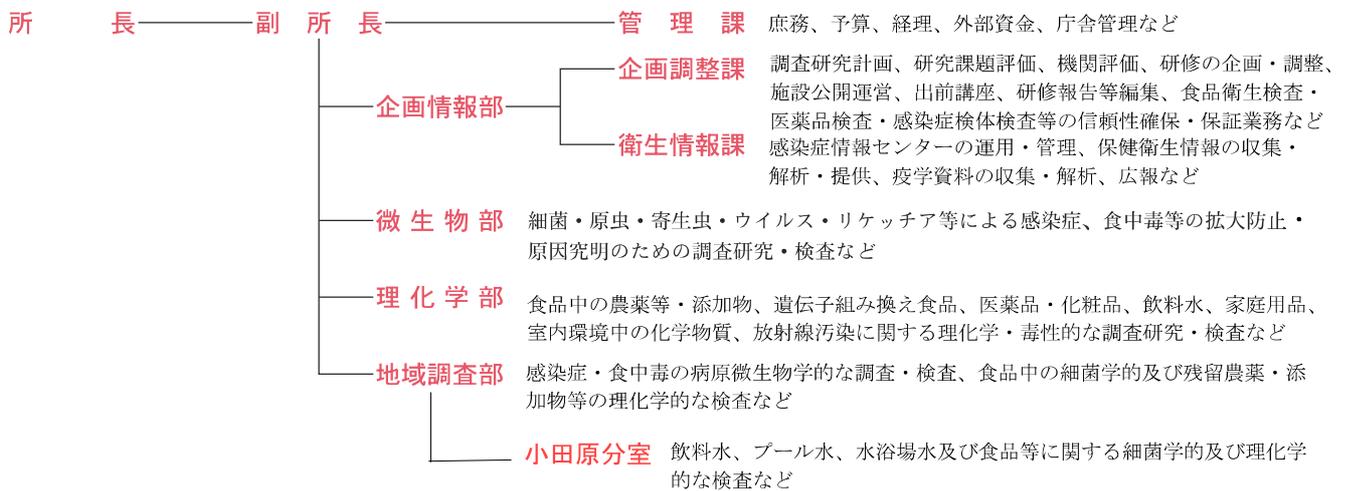
衛生研究所は、明治35年（1902年）に前身の検査所が設立されて以来、今日まで1世紀にわたる歴史の中で、常に新たな課題に挑戦し続けてきました。

- 明治35年11月 横浜市中区海岸通りにベスト検査所として発足
- 昭和12年3月 神奈川県中央衛生試験所（横浜市南区中村町）と改称、総合衛生試験機関として発足
- 昭和23年9月 厚生省3局長通牒「地方衛生研究所設置要綱」に基づき、神奈川県衛生研究所設置条例が制定され、神奈川県衛生研究所として発足
- 昭和39年3月 横浜市旭区中尾町に新庁舎新築・移転
- 昭和47年4月 隣接地に新棟建設
- 平成12年4月 感染症情報センターの設置（本庁保健予防課から業務移管）
- 平成15年6月 茅ヶ崎市下町屋に新庁舎新築（事務棟は既存棟を改修）・移転
企画情報部及び地域調査部の設置（保健所衛生検査課の検査機能の統合）
（4部3課4分室体制）
- 平成18年4月 食品G L P体制における食品衛生検査施設等の信頼性確保部門の設置（本庁生活衛生課から業務移管）
4部3課3分室体制に移行（藤沢分室廃止）
- 平成22年4月 防疫・食中毒業務（地域調査部）を本所に集約
- 平成25年4月 地域調査部3分室（小田原・茅ヶ崎・厚木）を集約化 4部3課1分室体制に再編

組織体制と主な業務

4部3課1分室体制

【組織図】



小田原分室



衛生博士



衛生ちゃん

衛生研究所の業務機能

調査研究、試験検査、研修指導、公衆衛生情報の収集・解析・提供などの業務を行っています。
県民の皆さんからの相談にも応じております。

1 調査研究

感染症の原因となる病原体や食品、環境中の農薬などの化学物質等から県民を守るため、健康被害の原因究明やリスク評価のほか、検査・試験法の開発などの調査研究を行っています。

調査研究結果については、学会、研究発表会などで報告・発表・提言が行われ、その成果は公衆衛生の向上のために様々な分野で活用されています。

【調査研究の4つの柱と主な調査研究課題】

①感染症の監視と予防に関する調査研究

- 新興・再興感染症等の対策（新型インフルエンザ、結核など）
- 性感染症対策（エイズ、淋菌など）
- 輸入感染症対策（ウエストナイル熱、デング熱、狂犬病など）
- 遺伝子迅速診断の開発と分子疫学
- 薬剤耐性菌対策（バンコマイシン耐性腸球菌、マイコプラズマなど）



安全キャビネット内でのウイルスの培養試験（微生物部）

②食品と医薬品の安全・安心に関する調査研究

- 食中毒防止対策（ノロウイルス、O157、貝毒、ふぐ毒など）
- 食品汚染監視対策（農薬、動物用医薬品、放射性物質、カビなど）
- 食品の安全確保対策（添加物、遺伝子組換え食品、食品のアレルギー表示など）
- 医薬品等の安全確保対策（医薬品、化粧品、健康食品など）



健康食品中からの医薬品成分の検出（理化学部）

③くらしの安全・安心に関する調査研究

- 生活環境の安全（環境放射線、衛生害虫など）
- 飲料水安全確保対策（農薬、クリプトスポリジウムなど）
- 室内環境保全対策（VOC、ホルムアルデヒド、カビなど）
- 化学物質危害防止対策（危険ドラッグ、家庭用品など）

④健康増進と疾病予防に関する調査研究

- アレルギー予防対策（食物アレルギーなど）
- 食品の機能性評価（食品素材など）
- 新技術の開発（発がんリスク評価法の開発など）



食品中の残留農薬の分析（地域調査部）

2 試験検査

健康への危害が想定される苦情検査や公衆衛生上の事件・事故発生時の原因究明のための検査、公衆衛生行政の基盤となる科学的、技術的データを提供するための検査等を行っています。また、食品、医薬品などの取締り、規制のための検査や調査を行い、データに基づく評価、提言などを行っています。

- 感染症の拡大防止、食中毒の原因究明・再発防止のための病原微生物の検査、食品中の残留農薬・動物用医薬品、添加物・有害物質・混入異物などの検査、医薬品などの規格検査、健康食品中の医薬品成分の分析、飲料水中の有害物質の成分分析など
- 食品衛生検査の信頼性確保業務、医薬品検査の信頼性保証業務、感染症検体検査等の信頼性確保業務

3 研修指導

新しい知識や技術の修得を目的として、衛生研究所の職員や各分野の専門家が講師となって、公衆衛生行政・衛生検査を担当している県や市町村などの技術職員に対して、研究成果、最新の知識や情報、技術を提供する実務研修等を行っています。

また、県民の皆さんを対象に、公衆衛生に関する知識や情報の提供、研究成果の普及などを目的とした公開セミナーや、子どもたちが楽しみながら科学技術の世界に関心を持てるよう施設公開などを実施しています。

- 調査研究によって得られた成果や技術を提供・普及する研修講座の開催
- 県、市町村衛生検査担当職員等の技術向上を目指す研修指導・人材育成
- 海外・国内からの研修生・実習生の受入れ
- 公開セミナー、施設公開、出前講座、講師派遣、相談等の実施



公開セミナー



施設公開（所内見学）



施設公開（小さな体験コーナー）

4 公衆衛生情報の収集・解析・提供

企画情報部内に感染症情報センターを置いて、オンラインで県内の保健福祉事務所から感染症情報を収集し、発生動向を調査、監視（サーベイランス）しています。調査結果は国へ報告するとともに、週報、月報などに編集してホームページにより県民の皆さんに情報提供しています。

また、調査研究の成果は、衛生研究所の研究報告のほか学会誌などに掲載されます。調査研究の概念や試験検査の結果については、「年報」「衛研ニュース」、ホームページなどでお知らせしています。

気軽に公衆衛生情報を視聴できる情報提供コーナーも設置しています。

- 感染症発生動向調査による感染症情報の提供、感染症の流行に対する注意喚起、疫学的視点からの統計研修
- 保健・医療従事者向けに保健医療、公衆衛生情報を専門的な観点から解説した情報提供
- 県民向けに地域保健情報をわかりやすく解説した情報提供
- 「研究報告」「衛研ニュース」などの発行や「年報」「神奈川県における放射能調査・報告書」「神奈川県感染症発生情報（週報・月報）」「微生物検査情報（月報）」「神奈川県の感染症」などの情報提供



感染症発生情報（週報）



研究報告



年報



神奈川県の感染症



衛研ニュース

施設の配置図

○施設整備の概要

土地 敷地面積 19,149.06㎡
 建物 総延床面積 17,288㎡

事務棟(既存棟改修)：

鉄筋鉄骨コンクリート造 7階建
 建築面積8,391㎡
 図書情報閲覧室等(1階)、事務室(4、5階)、
 会議室(6階)
 湘南地区広域防災活動備蓄拠点
 【安全防災局】(1～3階)

研究棟(新築)：

鉄筋コンクリート造 3階建(防震構造)
 建築面積 8,897㎡(渡り廊下121㎡を含む)
 実験動物飼育施設、共用実験室等(1階)
 生物系実験室(2階)
 化学系実験室(3階)

○建物立面図

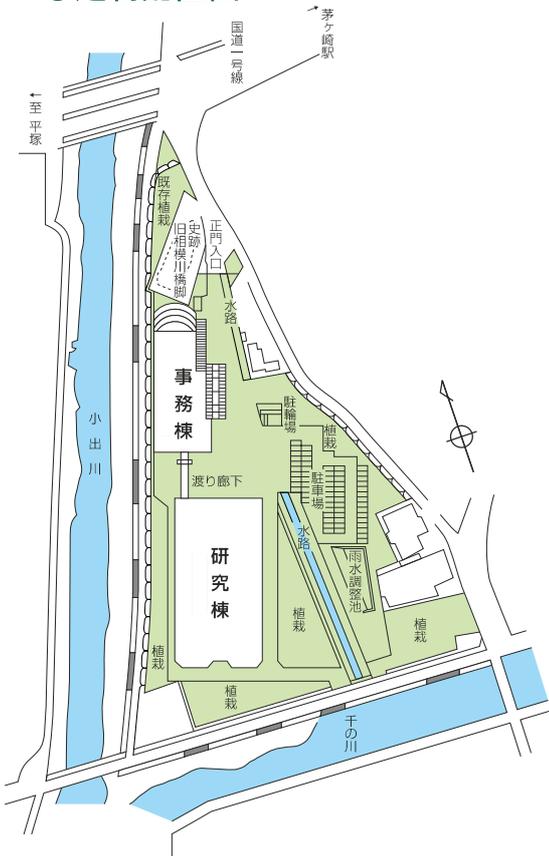
事務棟

7階	機械室
6階	大会議室 小会議室
5階	微生物部・理化学部・ 地域調査部事務室
4階	所長室、管理課・企画情報部事務室、 生活衛生課茅ヶ崎駐在等
3階	(安全防災局所管) 湘南地区広域防災活動備蓄拠点
2階	(安全防災局所管) 湘南地区広域防災活動備蓄拠点
1階	図書情報閲覧室等 (安全防災局所管) 湘南地区広域防災活動備蓄拠点

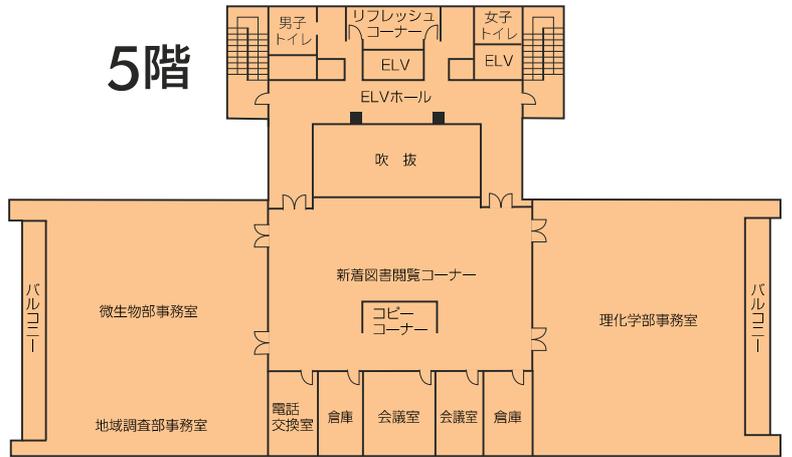
研究棟

3階	理化学部・地域調査部 (化学系実験室)
2階	微生物部・地域調査部 (生物系実験室)
1階	共用 (実験動物飼育施設、共用実験室、 電気室、機械室)
排水処理施設、免震層等	

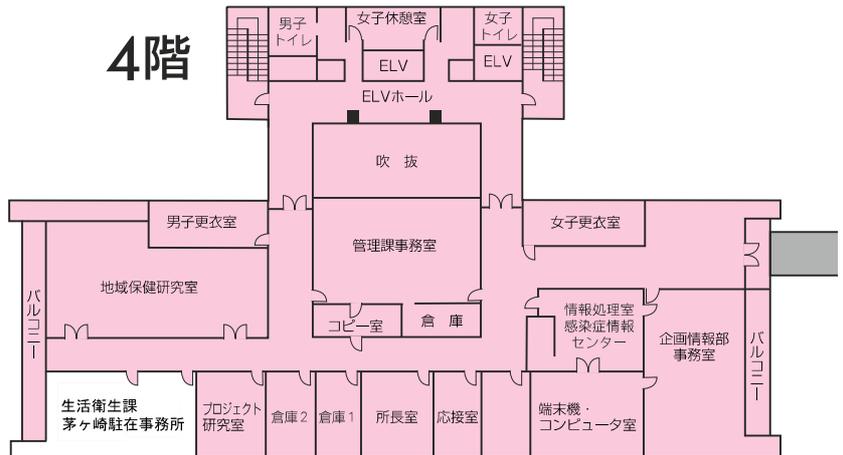
○建物配置図



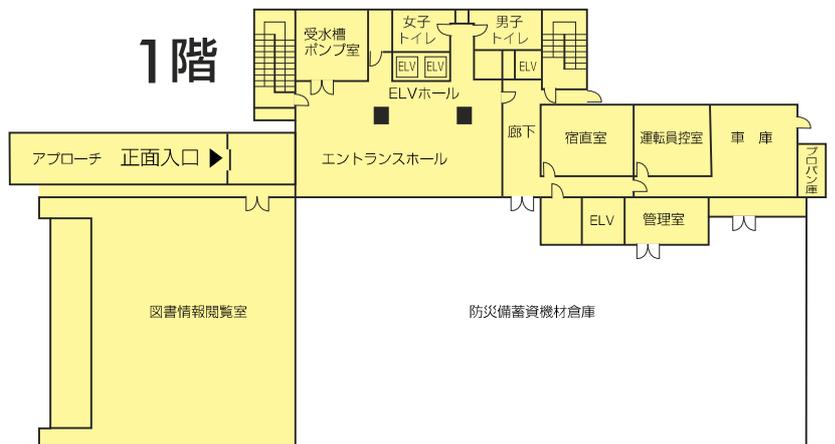
○建物平面図 事務棟



4階



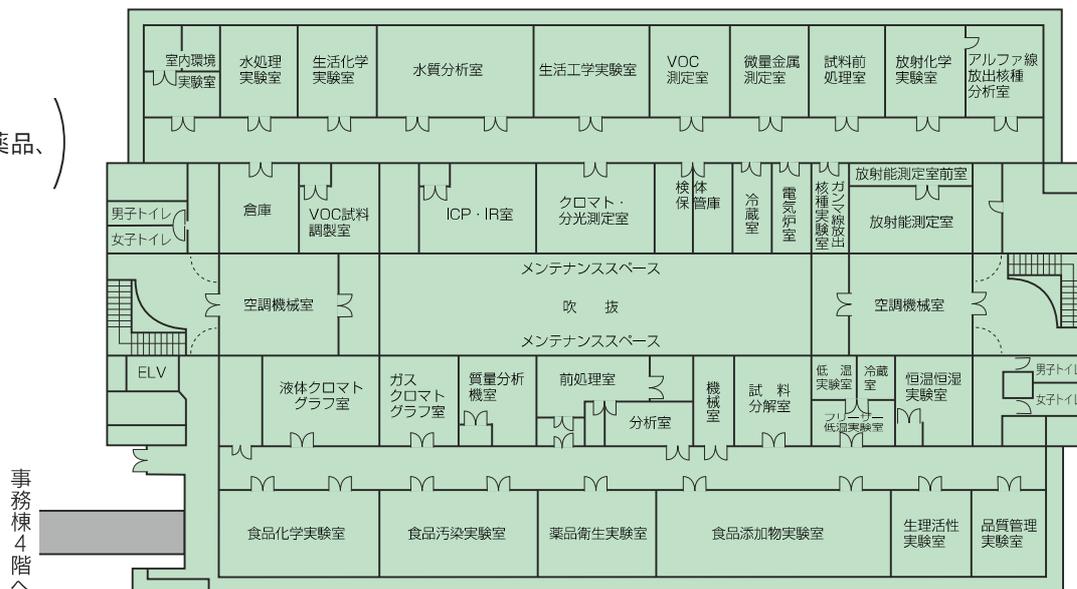
1階



研究棟

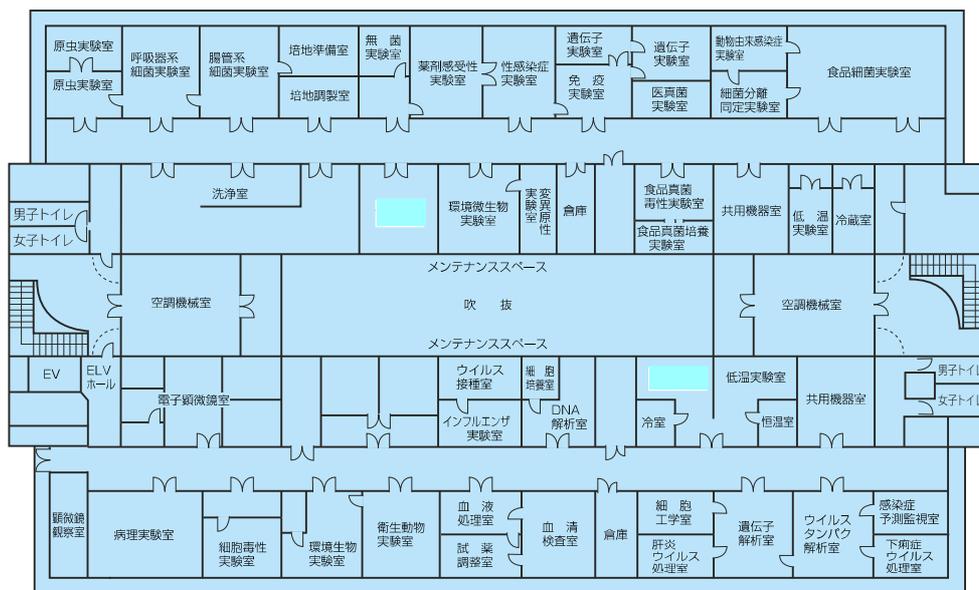
3階

(主に化学系実験室
食品、飲料水、医薬品、
放射能等)



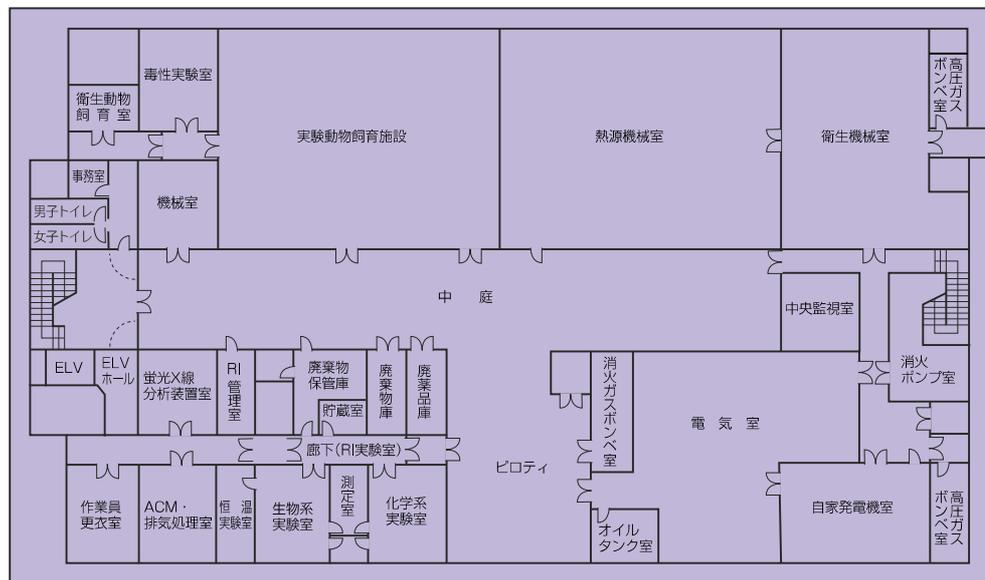
2階

(主に生物系実験室
細菌感染症、食品微生物、
ウイルス・リケッチア
感染症、食中毒等)



1階

(主に放射能関係実験室
実験動物飼育施設、
電気室、機械室等)



研究棟3階へ

施設整備の特色

1 環境への配慮・安全管理

県では環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得を経て、平成28年度から本県独自の環境マネジメントシステムを運用しています。衛生研究所では、このシステムにより環境配慮の取組みを進めています。

研究棟では各種の安全設備が設置されており、実験室の安全管理、試薬の集中管理、廃棄物の適正処理、公害防止対策など、安全管理に万全の態勢をとっています。建物の基礎は免震構造となっているため、地震に対して極めて高い安全性を備えています。

また、大規模災害の発生に備えて事務棟には湘南地区の広域防災活動備蓄拠点（安全防災局所管）を併設し、防災備蓄資機材倉庫棟を整備しています。

2 PFI方式の導入

施設の整備及び運営については、民間の資金や経営能力、技術、ノウハウを活用するため、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（PFI法）に基づき、事業者が研究棟の建設・所有、既存棟の改修、維持管理、運営（実験動物の飼育管理、LAN・情報システム運用、図書情報閲覧室の管理などの研究支援業務）を行うPFI（Private Finance Initiative）方式を導入し、経費の削減、業務の効率化に努めています。

案内図

所在地 茅ヶ崎市下町屋1丁目3番地1号（JR東海道本線・相模線茅ヶ崎駅から西へ約2km）

【位置図】



【周辺図】



● 交通案内

JR東海道本線・相模線 茅ヶ崎駅 北口下車（徒歩30分又はバス利用）
神奈川中央交通バス 浜見平団地行き「町屋」バス停下車 徒歩8分
平塚駅行き 「今宿」バス停下車 徒歩5分

分室・所在地

小田原分室 小田原市荻窪350の1 小田原合同庁舎内 電話 (0465)32-8000(代表)



衛生研究所ホームページ

【問い合わせ先】

神奈川県衛生研究所

住所 〒253-0087 茅ヶ崎市下町屋1丁目3番地1号

電話 0467-83-4400(代表)

FAX 0467-83-4457

ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/sys/eiken>



衛生博士

再生紙を使用しています。

平成29年4月発行